



# 「輝きと優しさに出会えるまち」 福井県若狭町

森下 裕

福井県若狭町長

若狭町は、福井県の南西部にあり、人口1万6099人(平成22年国勢調査)、面積178.65km<sup>2</sup>の町です。

平成17年3月31日に三方郡三方町と遠敷郡上中町が合併し、三方上中郡若狭町が誕生しました。

若狭湾国定公園の中心部にあつて、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録された「三方五湖」、全国名水百選「瓜割の滝」、近畿一美

しい川とされる1級河川「北川」など水資源が豊富な町です。

この地の歴史は1万年以上昔の縄文時代にまでさかのぼり、「縄文遺跡」や「古墳」が数多く点在しています。国道303号は、かつて日本海と畿内を結ぶ「鯖街道」として多くの物や文化が行き交い、街道に沿って栄えた宿場町「熊川宿」は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。平成27年4月には、「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群」御食国若狭と鯖街道」として、日本遺産第1号に認定されました。

また、三方五湖のひとつである水月湖の湖底から採取された「年縞」は、平成24年に地質学的年代を測定する世界標準とされ、世界中から注目を浴びています。

福井梅発祥の地でもあり、ウメやナ

シなどの果物栽培が盛んなほか、民宿や旅館が90軒以上あり、観光にも力を入れています。

## 就農定住を目指す かみなか農楽舎

現在、若狭町には、約2000haの農地がありますが、高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。一方で安全で安心できる食糧供給、自然環境の保全等の観点から、農業・農村への社会の期待が高まっています。

地域の課題、社会の課題として、農業・農村の再生が必須です。そのためには担い手が必要ですが、残念ながら、若狭町の地元にはその担い手が少ないのが現状です。

そこで若狭町では、『都市の若者に『農業農村再生の担い手』を期待し、2年





かみなか農楽舎

間の「就農定住研修事業」を立ち上げました。この事業を行う組織が「農業生産法人 有限会社かみなか農楽舎」です。かみなか農楽舎の運営は、地元・民間企業、若狭町が協力し一体となつて行っています。

就農定住研修事業では、2つの研修を実施します。

ひとつは、農業栽培などの具体的な技術研修で、水稲などの栽培から販売までを学びます。もうひとつは農村生活の研修です。農村生活の研修では生活リズムを体験し、協働意識を育成するために共同・自炊生活を取り入れ、かつ地元集落の行事や作業に積極的に取り組むなど、卒業後の農村生活を見据えた研修を取り入れています。

平成14年に就農定住研修事業を始め、以来、40人がかみなか農楽舎を卒業し、うち22名が新規就農者などとして若狭町に定住して、それぞれ活躍いただいています。

### 有害鳥獣処理から ジビエ料理へ

福井県嶺南地域(敦賀市・小浜市・美浜町・若狭町・おおい町・高浜町)では、年間約1万頭もの有害鳥獣が捕獲されています。そのため、捕獲した有

害鳥獣を処理する施設として、6市町が共同出資し、「嶺南地域有害鳥獣処理・加工施設」を若狭町に建設しました。嶺南地域で捕獲されたシカ・イノシシなどが搬入され焼却処分されます。

また、捕獲されたシカやイノシシの有効な活用を図るための施設として、加工施設を併設しました。加工施設は、獣肉を食べること(命を大切にすること)を通じた次世代への恵み豊かな環境づくり、人づくりのきっかけとなる施設を目指して運営しています。これまでになかなか購入できなかったシカ・イノシシの獣肉を「若狭ジビエ」として販売しています。今年から道の駅「三方五湖」で気軽に購入することもできます。ほかにも、福井県や町内の料理家と連携し、シカ肉を使ったレシピを作り、若狭ジビエの普及に努めています。

### 若狭町で暮らす

若狭町では人口減少社会に対応するため、「次世代の定住促進」をまちづくりの柱にして、定住や移住に力を入れています。福井県は子どもが学力・体力ともに全国トップクラスであることに加え、若狭町は、自然の中で子どもたちの個性を伸ばす特色ある保育を実施していることや充実した子育て環境、若者の就農

研修施設があることなど、『若さ』あふれる町として情報発信しております。

また、地域の特色や風習を活かした挙式「ふるさとウエディング」を応援する取り組みも行っております。これは、地域のなかで花嫁・花婿姿を見る機会を作り、より多くの住民の皆さんに見ていただくことで、結婚に対する憧れや意識の向上を図り、未婚化・晩婚化対策と地域活性化に繋がっていきたいと考えています。平成27年には、5組のカップルがふるさとウエディングで結婚されました。

少子高齢化に伴い、空き家が増えてきたことも課題です。若狭町では、「空き家情報バンク」を立ち上げ、空き家の所有者と連絡を取り、売却や賃貸してもよいという物件を公開しています。これまで、53件の登録があり、うち25件が契約され、移住・定住者にとつての住まいとして活用されています。

### おわりに

若狭町は、これからの人口減少に立ち向かうため、町の地域特性や可能性を活かしたまちづくりに努め、「若者が住みやすい風土や環境をつくり、活躍できるまちづくり」を目指していきたいと考えています。